

適格請求書発行事業者の登録申請書 (国内事業者用) 及び次葉の記載要領等

1 提出すべき場合

この申請書は、国内において課税資産の譲渡等を行い、又は行おうとする事業者であつて、適格請求書の交付をしようとする国内事業者が、税務署長の登録を受けようとする場合に、届出者の納税地を所轄する税務署長に提出します(法57の2②)。

- (注) 1 令和5年10月1日から令和12年9月29日までの間に提出する場合に、この申請書を使用します。
2 この申請書を提出するときは、次葉を併せて提出してください。
3 登録を受けることができる事業者は、課税事業者に限ります。ただし、所得税法等の一部を改正する法律(平成28年法律第15号)附則(以下「附則」といいます。)第44条第4項の規定の適用を受けようとする場合は、申請時に免税事業者であっても登録を受けることができます。
4 登録を受けた日の属する課税期間の翌課税期間以後の課税期間においては、基準期間における課税売上高が1,000万円以下となった場合であっても、納税義務の免除の規定の適用はありません(法9①)。
5 附則第44条第4項の規定の適用を受ける場合は、登録を受けた日から納税義務の免除の規定の適用はありません(登録を受けた日の属する課税期間の初日から登録を受けた日の前日までは免税事業者ですが、登録を受けた日から課税事業者となるため、登録を受けた日以降の取引について、消費税の申告が必要となります。)
6 適格請求書発行事業者の登録は、適格請求書発行事業者登録簿への登載により行われます。適格請求書発行事業者登録簿に登載された事項に変更があった場合は、「適格請求書発行事業者登録簿の登載事項変更届出書」を提出する必要があります(法57の2⑧)。
※ 法人が名称又は本店若しくは主たる事務所の所在地を変更したことにより、その旨を記載した異動届出書を提出した場合には、この届出書の提出は不要です。
7 適格請求書発行事業者が登録の取消しを求めるときは、「適格請求書発行事業者の登録の取消しを求める旨の届出書」を提出する必要があります(法57の2⑩一)。

2 提出時期等

この申請による登録の効力は、税務署長が登録をした日から生じます。

免税事業者が、附則第44条第4項の規定の適用により、令和5年10月2日以後の日に登録を受ける場合、登録希望日(提出日から15日以降の登録を受ける日として事業者が希望する日)を記載し、その登録希望日から登録を受けることとされています。

また、免税事業者が、納税義務の免除の規定の適用を受けないこととなる課税期間の初日(令和5年10月2日以後開始する課税期間に限ります。)から登録を受けようとする場合は、当該課税期間の初日から起算して15日前の日までにこの申請書を提出する必要があります(法57の2②、令70の2①)。

適格請求書発行事業者の登録には、一定の審査期間を要しますので、申請書は余裕を持って提出してください。

- (注) 税務署長による登録が完了した日が登録希望日後となった場合であっても、登録希望日に登録を受けたものとみなされます(消費税法施行令等の一部を改正する政令(平成30年政令第135号)附則15③)。

3 記載要領

- (1) 「事業者区分」欄は、この申請書を提出する時点において、該当する事業者の区分に応じて数字の1、2又は3を記載します。
免税事業者に該当する場合は、次葉「免税事業者の確認」欄を記載してください。
- (2) 次葉「免税事業者の確認」欄は、次のイ又はロに掲げる場合に該当するとき、それぞれに掲げる事項に留意して記載してください。
- イ 免税事業者である課税期間中に登録を受けようとする事業者(令和5年10月1日から令和11年9月30日までの日の属する課税期間中に登録を受け、附則第44条第4項の規定の適用を受けようとする事業者)に該当する場合は、「a」欄に数字の1を記載し、その他の欄を次のとおり記載します。
- (イ) 「個人番号」欄は、個人番号を記載します(法人は不要です。また、本人確認書類^(※)の提示又は写しの添付が必要です。)。この申請書の控えを保管する場合は、その控えには個人番号を記載しないなど、個人番号の取扱いには十分にご注意ください。

(※) 本人確認書類

区分	本人確認書類
マイナンバーカードをお持ちの方	マイナンバーカード
マイナンバーカードをお持ちでない方	番号確認書類（通知カード ^(注) など）＋身元確認書類（運転免許証など）

(注) 「通知カード」は令和2年5月25日に廃止されていますが、通知カードに記載された氏名、住所などが住民票に記載されている内容と一致している場合に限り、引き続き番号確認書類として利用できます。

- (ロ) 「生年月日 設立年月日」欄は、個人事業者は生年月日を、法人は設立年月日を記載します。
- (ハ) 「事業年度」欄は、法人の事業年度を記載します（個人事業者は記載不要です。）。
なお、設立1期目で事業年度が変則的なものとなる場合などは、通常時の事業年度を記載します。
- (ニ) 「資本金」欄は、資本金の額又は出資の金額を記載します（個人事業者は記載不要です。）。
- (ホ) 「登録希望日」欄は、提出日から15日後以降の登録を受ける日として希望する日を記載してください。

ただし、令和5年10月1日から令和11年9月30日までの日の属する課税期間内の日に限ります。

ロ 「消費税課税事業者届出書」又は「消費税課税事業者選択届出書」を提出し、納税義務の免除の規定の適用を受けないこととなる課税期間の初日から登録を受けようとする事業者が該当し、申請日が翌課税期間の初日から起算して15日前の日までの場合は、「b」欄に数字の1を記載し、「消費税課税事業者届出書」又は「消費税課税事業者選択届出書」の「適用開始課税期間(自)」欄に記載した年月日を「翌課税期間の初日」欄に記載します。

ただし、当該課税期間の初日が令和5年10月2日から令和11年9月30日までの日の場合に限ります。

なお、この場合の「消費税課税事業者届出書」又は「消費税課税事業者選択届出書」は、この申請書の提出前又は提出と同時に提出してください。

- (3) 次葉「登録要件の確認」欄は、この登録を受けるに当たり必要な要件を記載しています。申請書の欄に従い該当する数字を記載してください。
- (4) 次葉「相続による事業承継の確認」欄は、事業を承継した相続人（適格請求書発行事業者を除きます。以下同じです。）が、法第57条の3第3項の適用を受けようとする場合に記載します。同項の規定により、①相続があった日の翌日からその相続人が適格請求書発行事業者の登録を受けた日の前日、②相続に係る適格請求書発行事業者が死亡した日の翌日から4月を経過する日、③死亡した適格請求書発行事業者が適格請求書発行事業者の登録の取消しを求める旨の届出書を提出していた場合、その登録が失効する日の前日のいずれか早い日までの期間（以下「みなし登録期間」といいます。）について、その死亡した適格請求書発行事業者の登録番号が相続人の登録番号とみなされますが、みなし登録期間の末日の翌日以後は、被相続人の登録番号は失効します。
みなし登録期間後においても適格請求書を交付しようとするときは、新たに登録申請書を提出する必要があります（法57の3③）。
- (5) 次葉「参考事項」欄は、その他参考となる事項等がある場合に記載します。

4 公表事項について

- (1) 申請書に記載した次の事項は、国税庁ホームページで公表されます。
なお、常用漢字等を使用して公表しますので、この申請書に記載した文字と公表される文字とが異なる場合があります。
イ 申請者の氏名又は名称
ロ 法人（人格のない社団等を除きます。）にあっては、本店又は主たる事務所の所在地
- (2) 申請書に記載した事項以外で、次の事項については申請者からの申出により公表ができます。公表を希望する場合は、この申請書以外に「適格請求書発行事業者の公表事項の公表（変更）申出書」を提出してください。

事業者区分	公表を希望する事項
個人事業者	<ul style="list-style-type: none"> ・主たる屋号 ・主たる事務所の所在地等 ・通称（住民票に併記されている通称に限ります。）^(※) ・旧姓（旧氏）氏名（原則、住民票に併記されている旧姓（旧氏）に限ります。）^(※)
人格のない社団等	<ul style="list-style-type: none"> ・本店又は主たる事務所の所在地

(※) 通称又は旧姓（旧氏）氏名は、氏名として公表するか氏名と併記して公表するかを選択できます。

通称又は旧姓（旧氏）氏名の公表を希望する場合は、以下の添付書類が必要です。ただし、e-Taxにより提出する場合は、添付を省略することができます。

通称：住民票の写し

旧姓（旧氏）氏名：住民票の写し又は（旧姓（旧氏）氏名が併記された）マイナンバーカードの写し

また、旧姓（旧氏）氏名の公表を希望する方は、下記5(3)もご確認ください。

5 留意事項

(1) 通知される登録番号は、次のとおりです。

イ 登録時に法人番号を有する法人

法人番号及びその前に付されたローマ字のTにより構成されるもの

ロ イ以外の課税事業者

13桁の数字（法人番号と重複しないものとし、当該課税事業者の個人番号と重複しないもの）及びその前に付されたローマ字のTにより構成されるもの

(2) 免税事業者が、令和5年10月1日から令和11年9月30日までの日の属する課税期間中に登録を受ける場合は、登録希望日から登録を受けることができる経過措置が設けられており、この経過措置により登録申請を行う場合には、「消費税課税事業者選択届出書」の提出は不要です。この場合、登録を受けた日以後2年を経過する日の属する課税期間の末日までは、免税事業者となることはできない（登録を受けた日が令和5年10月1日の属する課税期間である場合を除きます。）ため、「適格請求書発行事業者の登録の取消しを求める旨の届出書」を提出し、登録の効力が失われても、基準期間における課税売上高に関わらず課税事業者として消費税の申告が必要です（附則44⑤）。

(3) 住民基本台帳法令の規定により、やむを得ず住民票に旧姓（旧氏）を併記できない場合には、「適格請求書発行事業者の公表事項の公表（変更）申出書」に戸籍謄本を添付して提出することにより、氏名に代えて旧姓（旧氏）を公表することができます。詳しくは、適格請求書発行事業者公表サイトの「よくある質問2-5」をご確認ください。

よくある質問



6 その他

インボイス制度特設サイトでは、インボイス制度の概要、ポイントを解説した動画、各種リーフレット等やQ&Aなどの情報を掲載しています。

特設サイト

